

広域の通信制高 神野学園が計画

県私学審で継続審議に

関市に本校

学校法人神野学園（名古屋）が岐阜医療科学大関キャンパス（関市）を本校として広域の通信制高校の設置を計画していることが15日、分かった。岐阜市と名古屋、三重県四日市市の3カ所に面接指導施設を設け、本校と合わせた総定員は600人。2026年4月開校を目指しているが、同日の岐阜県私立学校審議会は事前審査で継続審

議とし、現行計画では認可申請に進めない見通しとなった。

神野学園は県内では中日本自動車短大（加茂郡坂祝町）や中日本航空専門学校（関市）を運営している。

設置計画によると、学校名は神野学園高校。不登校や外国ルーツの生徒らの受け入れを想定し、普通科に高校卒業資格取得サポートや法人運営学校への内部進

学、日本語の不自由な生徒向けなど五つのコースを設置。東海3県や海外を生徒の募集エリアとしていた。中濃地域には通信制高校の本校がなく、他県の通信制高校や、その学習センターに通う生徒も多いという。法人は学校設置の狙いを県内の大学や短大、専門学校との連携を強化し、県内進学を促すほか、県内への就職を前提としたインターシップや校外学習が可能になると説明。生徒数は26年度が200人、27年度は400人、28年度は600人と見込んだ。県による

と関キャンパスにあった看護学部が可児キャンパスに移転しており空いた校舎を高校に活用する予定だった。

審議会では委員から、本年度の県内高校の通信制の定員充足率は私立で70%、公立で50%にとどまるとの指摘があり、15歳人口が減少する中、生徒を見込み通り確保できるか疑問などとして継続審議で一致した。審議会は他に「みらいTO（と）日本語学院」（大垣市）を各種学校として認可することなど3件を妥当と答申した。（小森直人）